

# 警告ブザーで知らせるバック事故防止センサー

## 全車両に導入

山梨総合運輸（山梨県甲斐市）は、トラック専用のバックセンサー「TPIB-SOI」を全車両50台に導入した。車両後方に四つのセンサーを取り付けることで、後退時に障害物の存在をドライバーに知らせ、看板やシャッターなどの衝突事故を防止する。運送会社向けの安全製品を専門に取り扱うトライプロ（東京都世田谷区）が販売した。



山梨総合運輸

ドライバーは、LEDによる表示とブザー音で障害物との距離を把握できる。ブザー音は距離で変化するため、モニター部を凝視しなくても距離をつかむことが可能。有効距離は50メートル。

山梨総合運輸で安全対策の陣頭指揮を執る宮本真典業務部長は「軽微なものも含め、これまで当社で発生した接触事故を分析すると、後退時の事故が44%のほぼ「事故撲滅」の道として、バック時の対策に着目した」と導入の背景について語る。



宮本部長

バックセンサーを選んだ理由として同部長は、「バックモニターを装着しているドライバーが見えないケースは少なからず指摘した上で、視覚でダメなら聴覚でサポートしようと考えた」と話す。

また、グループ会社の川崎陸送（東京都港区）がバックセンサーを導入し、大きな効果を生んだことも一つの要因という。「一気に事故をゼロに出来れば良いが、現実的にはなかなか難しい。であれば、まず多いところ、すなわちバックの事故から重点的に減らしていこうと考えた」。

価格面とのバランスを意識し、バックセンサーだけで導入できるものを探したところ、トライプロのHPに辿り着いたという。「3か月から半年かけて、1台、3台と慎重にトライアルを繰り返して、効果を確認した上で全車両への導入に踏み切った」。

安全対策について同部長は、「当社もまだまだ発展途上」と前置きした上で、「全てがセンサーなだけでカバーできるわけではない。乗務員の教育も必要不可欠。両方が相まって事故ゼロが達成される」と持論を展開。「今後も、社内のモットーである『安全は全てに優先する』を軸として、安全装置の設置やトラック総合教育センターでの定期的な宿泊研修など、総合的にさらなる対策を進めていく」。

トライプロの高木宏昌社長は、「おかげさまでユーザーからの評判は非常に良い。1台でも多く導入車両を増やし、事故削減に貢献したい。まずは気軽に問い合わせしてほしい」と語る。問い合わせは、電話03-(5790)-9295番。